



「文武両道」

皆さんこんにちは、1組副担任の町田郁弥です。原町高校に入学してから半年が経過しようとしています、学校生活は楽しめていますでしょうか。私は南相馬市に来て半年、ラーメン屋「へうげもの」の「すごい油そば」を楽しみに日々を過ごしています。

さて、本題ですが、まず皆さんに質問です。勉強と部活動、両立できていますか？なにやら聞くところによると、課題が未提出だったり、定期考査で赤点を取って補習を受けたりと両立が難しい人が散見されているようです。今回のコラムタイトル「文武両道」は私の母校である福島東高校のスローガンです。東高は部活動が盛んな高校で、私は硬式テニス部に所属していました。私が通っていたところは部活動の時間を確保するために「45分7時間授業」のカリキュラムが生まれ、毎日16時から19時まで練習をし、土日も午前中は練習、午後は自主練と「部活漬け」の日々を送っていました。さて、肝心の勉強はというと、全くしていませんでした。課題も提出せず、定期考査も赤点連発と、正直なところ、君たちのことを指導できる立場にありません。(笑)しかし、そんな甘ったれた生徒を放置しておくほど、東高は甘くありません。課題がすべて終わるまで居残り勉強です。当然、部活動は行けず。居残り勉強しようものなら顧問の先生から「校庭10周(約8km)走ってこい！」と言われ、ラケットを握ることすら許されません。そんなことを経験してからは心機一転、真面目に課題に取り組むようになりました。平日は20時くらいに家に帰って、疲れて勉強どころじゃなかったので、さっさと寝て4時に起きて課題をやるようになり、土日も同じような生活を送っていました。大会があれば事前に課題を提出しなければならないので、休み時間に課題を消化し、週明け提出の課題があるのに土日に大会があったときは、試合までの空き時間を使って課題をやっていました。かなりしんどかった記憶がありますが、何とかやり切れました。

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」とプロイセン宰相ビスマルクが言葉を残しているのに、社会科教員が経験から学べというのは矛盾している気がしますが、「5分でもいいからやってみる」を意識してみてください。一度にたくさんの課題を出されてやる気がなくなるかもしれませんが、一気にやろうとするから辛いのです。毎日少しずついいからやってみましょう。休み時間に数学の問題を1問でもいいから解いてみたり、昼休みに早めに食事を終えて国語の文章題を1問だけ解いてみたり、やれることはたくさんあります。勉強は何もまとまった時間でやるものとは限りません。一人で集中して勉強をすることも大事ですが、英単語の問題を出し合ったり、課題でわからないことを教えあったり、学友と一緒にいるからこそできることもあります。凡人の私のできたのです。皆さんにできないはずがありません！最後に、フランスの哲学者、デカルトの言葉を君たちに送ります。

「困難は分割せよ」

「ルネ・デカルト (仏) 1596～1650」

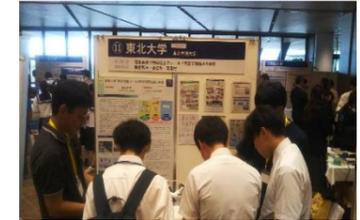
(1年1組副担任 町田郁弥)

《10月の主な行事》

9月30日(火)～10月3日(金) 2学期中間考査・最終日には避難訓練あり 6日(月) 特進課外(数学)
8日(水)～9(木) 球技大会 13日(月) 祝日(スポーツの日) 16日(木) FIC 事業ロボテス研修
20日(月) 特進課外(英語) 21日(火) 7校時進路講演会 27日(月) 特進課外(数学)
11月1日(土) ベネッセ総合学力テスト

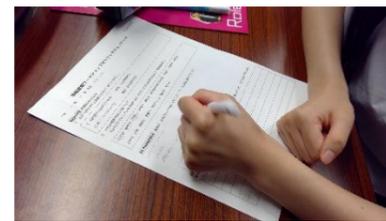
○「復興知」事業成果報告会に参加しました

9月5日(金)の午後、1学年全員で【大熊町産業交流施設 CREVA おおくま】に行ってきました。東京大学や大阪大学など、全国の大学生が一堂に会し、浜通りで経験したこと・学んだことなどを発表する場に原町高校の1学年が招待されました。皆、真剣に大学生たちの声に耳を傾けていました。



○地域理解プログラム

1学年の総合的な探究の時間ではいよいよ、地域理解プログラムが始まります。南相馬市役所(9月11日)、一般社団法人あすびと福島および小高ワーカーズベース(9月18日)からファシリテーターとして講師を招きワークショップを行いました。地域資源に関して収集した情報をグループで共有しながら「南相馬市の魅力」について多面的な理解を深めていきます。今後は、地域研究で得られた情報を自分たちの視点からまとめ、英語でプロモーションビデオを作成し、南相馬市の魅力を海外へ発信していきます！



○第2回進路希望調査

夏休み明け、8月22日に進路希望調査が行われました。その結果から次のことが分かりました。127人の生徒が四年制大学進学を希望しています。国公立大学を希望する生徒が81人おり、その内訳は福島大学が11人、福島県立医科大学が8人、東北大学が14人でした。

生徒の進路実現に向けて、教職員一同、力を尽くしてまいります。保護者の皆様と連携しながら、共に生徒みなさんの成長を支えていければ幸いです。